

令和2年度 第1回釧路市文化財保護審議会 【議事録】

令和2年11月27日(金) 14:00~15:00

釧路市交流プラザさいわい 3階大ホール

1. 出席委員 10名中9名出席
神田房行委員（委員長） 千葉忠弘委員（副委員長） 伊原禎男委員
高嶋八千代委員 竹内康浩委員 中山大将委員 西幸隆委員 柳田裕之委員
渡辺有希子委員 （欠席：鶴田眞智子委員）
2. 市出席者 津田生涯学習部長 澤口生涯学習課長 伊藤生涯学習課長補佐
守田生涯学習課主査 佐藤生涯学習課主事
佐藤博物館長 戸田学芸主幹 石川埋蔵文化財主幹 松本動物園ふれあい主幹
牧野阿寒生涯学習課長 尾山阿寒生涯学習課主査
仲谷音別生涯学習課長 計12名
3. 議 題 報告事項
1. 文化財の現状変更状況について（生涯学習課）
2. 新しく指定・登録された釧路市内の文化財について（生涯学習課）
3. 令和2年度天然記念物保護研究事業（春採湖ヒブナ生息実態調査）（博物館）
4. 令和2年度天然記念物保護研究事業（キタサンショウウオ産卵調査結果概要のまとめ　他）（生涯学習課・博物館）
5. タンチョウの生育状況及びタンチョウを取り巻く状況について（動物園）
6. マリモ生育環境の改善を目的とした水草除去作業について（阿寒生涯学習課）
7. その他
4. 議題説明内容と質問等

報告事項（１）文化財の現状変更状況について（生涯学習課）

生涯学習課より、昨年度及び本年度の受理件数を報告した。

令和元年度10件、令和2年度7件を受理した。

(質問なし)

報告事項（２）新しく指定・登録された釧路市内の文化財について（生涯学習課）

生涯学習課より、令和２年度２件の文化財が追加されたことを報告した。

1 件目は5月19日付で道無形民俗文化財に指定された「釧路鳥取きりん獅子舞」。

2件目は8月17日付で国登録有形文化財に登録された「旧五十嵐家住宅事務所兼主屋」である。

(質問なし)

報告事項（３）令和２年度天然記念物保護研究事業（春採湖ヒブナ生息実態調査）（博物館）

博物館より、ヒブナ産卵親魚目視カウント調査とヒブナ・フナ産卵調査の結果を報告した。

ヒブナ産卵親魚 1 尾を確認したが、水草へのヒブナ・フナ卵の付着は確認できなかった。
一方、近年減少していたリュウノヒゲモを 4 年連続して確認することができた。

委 員：産卵が確認できなかった要因として調査日数や人員の不足があるとすれば、追加調査等は検討されているのか。

事 務 局：昨年度から本調査方法で実施しており、まだ人員等について判断できる要素が足りないと考えている。

委 員：春採湖調査会では水温が急激に上昇した後に調査を実施したため産卵時期を逃したのではないかとの報告があった。温度変化の計測データ等をみながら来年調査を行えば良い結果が得られるのではないかと期待している。

報告事項（４）令和２年度天然記念物保護研究事業（キタサンショウウオ産卵調査結果概要のまとめ 他）（生涯学習課・博物館）

まず博物館より、本年度の調査結果を報告した。本年度は事業者から生息地照会があった地域等、庁内ネットワークで得た情報等から調査地を選定し、専門知識を有する業者に委託した調査も含め計 391 対の卵のうを確認した。続けて生涯学習課より昨年度及び本年度の庁内ネットワーク実績や釧路市内キタサンショウウオ保全啓発チラシ作成について報告した。

委 員：調査日程について、本年度は約 1 週間で実施しているが、予測を外してしまうと卵のうが確認できなくなる可能性があり、期間を開けて実施するよう来年度は考慮してほしい。

委 員：庁内ネットワークが出来たことは良いと思うが、できれば釧路町や標茶町など他地域とも連携し情報交換等ネットワークが広がると良いと思った。また、生息調査について、環境 DNA はキタサンショウウオに応用・適用できるものなのか。

事 務 局：ネットワークを広げることにについて、市役所内でもキタサンショウウオが文化財であることが周知されていない危機的状況とソーラー発電設備設置の増加により生息地が減少しているなかで庁内ネットワークを立ち上げ、1 年経過し効果が少しずつ出てきたところであり、今しばらくこのネットワークを強化させていき、その先で道や国と連携できれば理想的と考えている。

委 員：環境 DNA はオオサンショウウオ等でも適用されており、川等だと有効性が高いが湿原のような滞水している場所では難しいと考えられる。

委 員：小・中学校でクリーン活動やリサイクルに取り組んでいるが、世界的に SDGs が掲げられるなか、子供達にどのようにすれば自然が守れるか、特に身近なヒブナやキタサンショウウオ等について話が出来れば良いと考えている。博物館の出前講座でヒブナについて本校でも解説を受けているが、大人でも知らないことがあるので他に子供のうちから知る機会を設ける方法があればぜひ学校と連携してほしい。

委 員：環境省レッドリストにおいてキタサンショウウオが 2 ランク上がって絶滅危惧ⅠB 類となったことは大きなことだと認識しており、現在市指定の天然記念物だが、国指定とする方向で審議会として推進すべきと考える。このことについてのハードルについて聞きたい。また、レッドリストは法規制がないため、環境省の種の保存法リストに

追加依頼をすることも検討してはどうか。

委員：標茶町は町指定天然記念物だが釧路町はまだということで、広域なので道や国の天然記念物指定が望ましいと考えられるがその辺りについての動きはどうか。

事務局：はじめに小学校での学習についてはありがたい意見として受け止め、出前講座等で取り組んでいけたらと考えている。キタサンショウウオの国天然記念物への指定について、自然保護協会と協力して声を上げることは考えられるが、決定は国の審議会が行うためこちらの力の及ぶところではないと聞いている。広範囲に及ぶことなので道や保護団体等の関係団体と相談しながら、そういった機会が来た際に対応できるように考えたいと思う。ただ、現在指定されるには国の審議会に選ばれないと難しいと聞いており、手段等について調査しなければならずお時間をいただきたい。

委員：上士幌町で高いレベルの指定に向けて検討している可能性があるので情報提供する。

委員：市のみの問題ではなくなってきている。おそらく国レベルか最低でも道レベルでの指定となるだろう。この点は（国や道の）審議会が行うことだと考えるが、その際元々釧路市の天然記念物ということで市にも問い合わせ等があるかもしれない。その時はよろしくお願いいたします。

報告事項（５）タンチョウの生育状況及びタンチョウを取り巻く状況について（動物園）

動物園より、生息状況等について報告した。野生タンチョウの生息状況は約１８００羽と例年に比べ大きな変動はなかった。一方、令和元年度収容の傷病タンチョウは過去最高の５３羽であり、原因は事故が８割ほどを占める。収容数増加により対応が困難になっているため、国による保護収容医療設備等の整備を要望している。

委員：事故増加は問題と感じている。中でもスラリータンク事故の増加を感じており、原因としてスラリータンクの大型化が考えられる。スラリータンクの構造上に問題があることを関係者間で共有できると良いのではないか。キタサンショウウオに限らずタンチョウやオオワシ、オジロワシ等の事故事例をネットワークで共有できるよう努力してほしい。

事務局：キタサンショウウオは庁内ネットワークを行っているがタンチョウ等他の文化財への拡張は進んでいないところがある。タンチョウに関して環境省と連携を取りスラリータンクの問題は伝えているところだが、大型のスラリータンクについて対応が難しいことを現場サイドでは認識している。今後こうした点も含めて環境省と協力していければ良いと考えている。また、庁内ネットワークも参考にできればと思う。

報告事項（６）マリモ生育環境の改善を目的とした水草除去作業について（阿寒生涯学習課）

阿寒生涯学習課より、作業結果等について報告した。マリモの生長や回転運動に必要な水の流れを改善するため、期間中に延べ４５名のボランティアに協力いただき対象範囲の水草を湿重量で約１．８トン除去した。本年度で文化庁補助事業は終了するが今後も保護活動の一環として継続予定。

（質問なし）

報告事項（７）その他

特になし